

Title	フランス労働市場における構造変化の実証的研究 : 基盤としての内部労働市場とニューテクノクラートの台頭
Author(s)	雨宮, 康樹
Citation	大阪大学, 2000, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/42011
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	あめみややすき 雨宮康樹		
博士の専攻分野の名称	博士（国際公共政策）		
学位記番号	第 15560 号		
学位授与年月日	平成12年3月24日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 国際公共政策研究科比較公共政策専攻		
学位論文名	フランス労働市場における構造変化の実証的研究 －基盤としての内部労働市場とニューテクノクラートの台頭－		
論文審査委員	(主査) 教授 辻 正次		
	(副査) 助教授 Colin Mckenzie Clemeer 助教授 松繁 寿和 教授 橋本 介三		

論文内容の要旨

本稿は、フランスの労働市場の特質と80年代での構造変化を明らかにすることを目的とするものである。フランス労働市場は内部労働市場型であるとする研究がフランスには多く存在する。ところが、近年の賃金関数の分析によれば、80年代後半、勤続年数の係数がホワイトカラー層でマイナスに転じたと報告されており、一部の研究者はこれをホワイトカラー内部市場が専門職市場に代替されつつある証と結論付けている。しかし労働市場の特質や変化を、勤続係数の推計値から推測すると多くの問題を内包する可能性がある。

本稿では、このような問題意識のもと、次のような方法によって分析を進める。まず、労働市場の特質を賃金関数の分析だけでなく、内部昇進、自発的転職、管理職昇進等のキャリア分析によって明らかにする。そして賃金関数の推計結果をこれらキャリア分析の結果とともに吟味しながら、フランスの労働市場の特質や80年代での構造変化を明らかにする。

ただし、このようなキャリア分析は通常の横断面データを用いて行なうことは出来ない。そこで、本稿の分析には、調査対象者の過去から現在までの情報が網羅されている Formation et Qualification Professionnelle (FQP 93) の個票データを使用する。キャリア分析によって、賃金関数の勤続係数からは特定できないフランス労働市場の特質や近年の変化が明らかになることが期待される。

第1章では、個票データを用いた分析の予備作業として、80年代の労働市場の変化を、就業構造、経済・雇用政策、教育制度などの観点から概観する。

第2章では、労働者の職業階層を超えた「縦の移動」を分析した後、「縦の移動」を考慮した推計によって職業階層別年齢・賃金プロファイルを検討する。この分析によって、従来、20代を超えるとほとんど上昇しないとされてきた生産労働者の賃金が、年齢とともに大きく上昇することが明らかにされる。

第3章と第4章では、職業階層別労働市場の特質と80年代での構造変化が内部労働市場の観点から分析される。まず、第3章では、内部労働市場の存在を職業階層別に確認するため、内部昇進者の賃金優位性と内部昇進構造の分析を行なう。これらの分析からは、内部労働市場の優位性が高学歴技術層を除いたすべての職業階層で確認される。

また、第4章では、ホワイトカラーの賃金構造の変化を高学歴技術層を中心に分析する。まず、内部市場型の賃金構造を確認するため、年齢や勤続年数が各職業階層での自発的転職にどのような影響を及ぼしているか分析する。続いて、80年代後半の賃金構造変化の要因を高学歴技術層の分析を中心に検討する。これらの分析からは、転職が技術

系カードルを除いたすべての職業階層で、勤続年数によって強く抑止されていること、また賃金構造の変化が高学歴技術者の勤続外賃金の上昇によるものであることが明らかにされる。

第5章では、大企業カードル（管理職・専門職）の昇進に焦点をあて、カードルへの昇進分析を年齢、勤続、学歴などの観点から行なう。また、一般カードルから上級カードル（部長職・副部長職）への昇進分析を上記と同じ観点から行なう。これらの分析からは、大企業のカードルは内部昇進が主流であること、ただし、高学歴技術層と商業部門のカードルには外部からの採用組が多いことが明らかにされる。

論文審査の結果の要旨

本論文はフランスの80年代の労働市場に構造変化を個票データを用いた計量分析によって明らかにするものである。フランス労働市場は内部労働市場型であるとする研究がフランスには存在するが、近年の賃金関数の推計によれば、80年代後半、勤続年数の係数がホワイトカラー層でマイナスに転じたと報告されており、一部の研究者はこれをホワイトカラー内部市場が専門職市場に代替されつつある証左であると結論している。本論文では、労働市場の変化を、勤続係数を用いて推計することには問題があるとの問題意識のもと、賃金関数だけでなく、内部昇進、自発的転職、管理職昇進等の総合的なキャリア分析により明確にしている。このようなキャリア分析は通常の横断面データを用いて行なうことはできないため、分析では調査対象者の過去から現在までの個人情報網羅する Formation et Qualification Professionnelle (FQP 93) の個票データが使用されている。このキャリア分析によって、賃金関数の勤続係数からは特定できないフランス労働市場の特質や近年の変化が明らかにされた。

主な結果は次のように要約される。まず、労働者の「縦の移動」を考慮して賃金関数を推計すると、従来、20代を超えるとほとんど上昇しないとされてきた生産労働者の賃金が、年齢とともに大きく上昇し、フランスの労働市場における内部労働市場の優位性が高学歴技術層を除いたすべての職業階層で確認された。さらに、転職が技術系カードルを除いたすべての職業階層で、勤続年数によって強く抑止されていること、また80年代の賃金構造の変化が高学歴技術者の勤続外賃金の上昇に起因していることが明らかにされた。さらに、大企業のカードルは内部昇進が主流であること、ただし、高学歴技術層と商業部門のカードルには外部からの採用組が多いことが示された。

以上のように、通説とは異なるフランス労働市場の特徴が詳細な計量分析によって明らかにされた意義は大きい。今後は、例えば、パネル・データを用い、より詳細なキャリア分析が行なわれることが期待される。